

大鹿村中央構造線博物館たより 117号



2019年2月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

西方見聞録「世界はこんなふうだった」 中央アジア編を開催しました

鹿塩在住の伊東一郎さんによる解説付き諸外国写真上映会、今年は中央アジア編ということで、2015年のタジキスタン・ウズベキスタンの写真、2000～2002年のキルギスの写真を、1/5(土)、6(日)、9(水)、10(木)、11(金)の5日間にわけて、上映いただきました。中央アジアは、紀元前から東西交易の要衝として栄えていた地域で、中世の建築物があちこちに残っており、世界文化遺産に登録されているものも少なくありません。

この紙面上では、当日の写真からいくつか紹介したいと思います。しかしながら、白黒紙面では、十分に魅力を伝えられません。美しいサマルカンドブルーをカラー写真で見たい方は、伊東さんが開設された「世界写真の旅」のホームページ <https://xxxwpt.jimdofree.com/> をご覧ください。



写真1 シャーヒ・ズィンダ廟群
サマルカンド (ウズベキスタン)



写真2 ミル・アラブ・メドレセ (神学校)
ブハラ (ウズベキスタン)

まずは、ウズベキスタンの写真を4枚ピックアップします。写真1は、青の都と呼ばれるオアシス都市サマルカンドにある巨大なお墓です。濃淡さまざまな青色のタイルと細かな装飾模様が特徴的です。写真2は、サマルカンドと並ぶシルクロードの要衝ブハラにある現役の神学校です。右側に写っている塔は、ミナレットとって、イスラム教徒に礼拝を呼びかけるのに利用します。写真3は、かつて敵の進入を防ぐための要塞だった場所で、おそらく敵の侵入を防いだり、周囲を見張ったりするのに使われたと思われます。写真4は、ウズベキスタン最古の町の一つヒヴァの中心部にあるイスラム教の礼拝堂とミナレットです。ヒヴァの旧市街地は、城壁に囲まれたかつての城塞都市の様子を残しており、町全体がユネスコの世界文化遺産に登録されていますが、区域内に居住している人もいます。



写真3 レギスタン広場と要塞
ブハラ（ウズベキスタン）



写真4 ジュマ・モスクとミナレット
ヒヴァ（ウズベキスタン）

次に、タジキスタンの写真を紹介します。写真5は、首都ドウシャンベの大通りです。旧ソ連時代に、パリの街並みをモデルに、道路も歩道も広く作ったそうです。写真6は、タジキスタンの東半分を占めるパミール高原の標高4000m前後の地域に延びているパミールハイウェイの様子です。延々と続く電柱が印象的です。



写真5 首都ドウシャンベの街並み
（タジキスタン）



写真6 パミールハイウェイとヒンドゥークシ山脈
（タジキスタン）

最後にキルギスの写真です。キルギスは、天山山脈と、パミール高原に囲まれた山国ですが、古くからシルクロードの要衝として栄えていたそうです。写真7は、シルクロードのメインルートの一つ、天山北路です。写真8は、キルギスの主要民族の一つであるキルギス民族の遊牧風景です。後方に建っているのは、ユルタと呼ばれる移動式の住居で、中国ではパオ、モンゴルではゲルと呼ばれるものです。



写真7 イシク湖近くのシルクロード（キルギス）

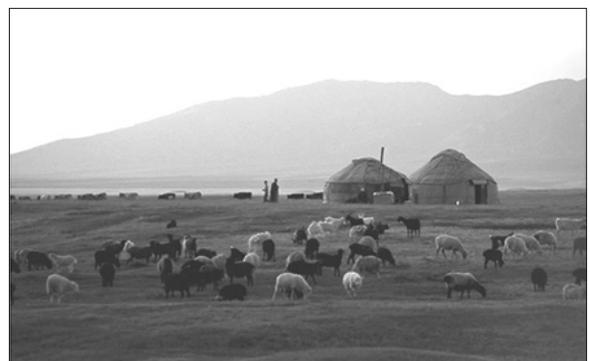


写真8 ソンクル湖湖畔の放牧民の暮らし（キルギス）

毎年上映会の時期は、外が雪景色となっていることも多かったのですが、今年はまったく雪がなかったため、車の運転の心配もなく、村外から来てくださった方もおられました。伊東さんによりますと、次回はインド編を計画中とのことですので、来年もご期待ください。（宮崎）